ふれあうナカマ 育む 見守る ちょっと近くない？

学校は地域と共に歩んでいます。宮城県内の小中学校の様子、自慢できることを、児童・生徒が紹介します。

えっ？ 育む 見守る ふれあうナカマ

北中山小

地域と交流 良い思い出に

これがイチオシ

仲良く「クラスタイム」

北中山小学校では、毎週水曜日朝に「クラスタイム」があり、クラスの仲を深めるため、集会活動をしたり遊んだりします。遊びは、担当の係を中心に決めます。室内では、フルーツバスケットやヘビじゃんけんなどの遊びをします。外では鬼ごっこやドッジボールなどをして体を動かします。

自分たちで考えて活動することができ、皆とても楽しみにしています。これからも、クラス皆で協力して仲よく過ごしていけるように「クラスタイム」を続けていきたいです。

学校名　仙台市立北中山小学校
所在地　仙台市泉区北中山２の27の５
創　立　1992年
電　話　022(376)3402
校　長　中久保　光志
児童数　398人

年に1回「七色まつり」

北中山小学校は年に1回、児童会の「七色まつり」を実施しています。全学年が楽しく交流できる祭りです。

七色まつりの1カ月ほど前から、4～6年生がお店の準備を始めます。店の内容が決まると、各クラスでお店をPRするポスターやCMを作ります。CMはお昼の放送で流します。皆わくわくしながら見ています。

当日はお化け屋敷、射的、迷路など、店がたくさん出ます。特にお化け屋敷が人気で、毎年行列ができます。七色まつりには「七色にゃんこ」というキャラクターと「七色の虹の向こうへ」というテーマソングもあり、皆に親しまれています。

地域の幼稚園の子どもたちや保護者の方々も招待し、一緒に楽しみます。前半と後半に分かれて店を出すので、前後半で交代し、みんなが遊んで楽しむことができます。

とても思い出に残るおまつりです。これからも学校内や学校外の人たちとの交流を大切にし、学年関係なく仲良くしていける北中山小にしていきたいです。

魚つりゲームで遊ぶ子どもたち

編集委員　髙須仁奈、小泉香帆、髙橋佳芳（６年）
指導教員　武田祥子、森直央

わが校 わがまち スクール通信

次回は
吉田小（亘理町）
遠見塚小（仙台市）

北方小

継承会から学び練習披露

大切な伝統「北方神楽」

北方小学校は、187３年（明治６）年に開校し、150年以上の歴史があります。宮城県内最大の湖沼、長沼が近くにあり、豊かな自然に囲まれています。現在、児童数は149人です。全員友達の名前が分かり、仲良く学校生活を送っています。

私たちの住む北方には、「北方神楽」という伝統芸能があります。北方小の児童は3年生になると、学習発表会でこの北方神楽を披露します。これまでもたくさんの先輩方が踊ってきました。このように北方神楽を受け継いでいけるのは、北方神楽継承会の皆さんが教えてくれるからです。

北方神楽継承会の皆さんは、私たちに踊りを教えてくれるだけでなく、太鼓やかねを演奏したり、歌を歌ったりして、私たちの踊りを支えてくれます。

学習発表会前の約1カ月間、北方神楽継承会の方に教えていただきながら、一生懸命練習に励みます。これまで受け継がれてきた北方神楽を、これからも大切にしていきたいと思います。

北方神楽を踊っている様子

編集委員　江刺心咲、小野寺琴美、佐藤奏太、鈴木春華、田代煌斗、三浦陸（６年）　指導教員　末永潤也（転任）

これがイチオシ

見守るシンボルキャラ

北方小学校には「KITAレンジャー」という６体のシンボルキャラクターがいます。アイデアを募集し、児童の投票で５体のキャラクターが選ばれました。それぞれ「笑顔」「安全」「思いやり」「元気」「学び」がモチーフです。さらに北方小の守り神「きたっぴー」を合わせて６体です。

児童は５体から１年間の目当てにするレンジャーを選び、そのレンジャーが描かれた缶バッジを身に付けます。KITAレンジャーは北方小の児童を見守り、励ましてくれています。

学校名　登米市立北方小学校
所在地　登米市迫町北方富永110の５
創　立　1873年
電　話　0220(22)2286
校　長　進藤　俊博
児童数　149人

子ども×ニュース 河北新報から

カキ養殖「難しい」

気仙沼 唐桑小４～６年生が挑戦

気仙沼市唐桑町の宿舞根漁港で、唐桑小の児童がカキの養殖作業を体験した。県漁協唐桑支所青年部のメンバーや漁船員OBらでつくる唐桑海友会会員らの指導を受けながら、4～6年生の計79人がカキを育てる作業に挑戦した。

4年生はカキの稚貝が付いたホタテの貝殻をロープに挟み込む「種挟み」を担当。伊藤海翔さん(10)は「ロープをほどいたり結んだりするのが難しかった」と話した。

5年生はカキの耳にドリルで穴を開け、テグスを通してロープにつるす「耳つり」、6年生は成長して密集したカキをなたで一つ一つ分ける「カキ砕き」の作業に励んだ。

同小の学校支援委員会代表でカキ養殖を営む畠山政也さん(41)はあいさつで「唐桑の海を肌で感じてほしい」と語った。

養殖作業の体験は2004年に始まり、今年は6月26日にあった。地元の水産業に理解を深めてもらう総合学習の一環で、4年生の時に海中に沈めたカキの稚貝を、6年生の冬に収穫してカキむきをし、約3年かけて出荷までの流れを学ぶ。

（7月1日朝刊より）

ホタテの貝殻をロープに挟み込む４年生

「スチューデントシティ」は、仙台市内の小学5、6年生がお仕事をして給料をもらい、買い物や納税をする「小さな街」です。河北新報社は、新聞づくりなどの仕事を体験する支局を開設しています。

河北新報の仕事 がんばった

仙台市スチューデントシティ支局員紹介

沖野小６年（7月2日）

鶴が丘小６年、南材木町小６年（7月4日）

七郷小６年、古城小６年（6月27日）

大和小６年（7月1日）